

「NABShow 2018」レポート(2)



神谷 直亮

先月号に引き続いて「NABショー2018」(4月9日～12日、米ネバダ州ラスベガスで開催)についてレポートする。今回は、主に「アウトドア・モバイル・メディア」と名付けられた屋外展示会場に触れたいと思う。

「NABショー」に通うようになって30年になるが、毎年のように悩むのが、屋外展示会場を見て回る日時である。今回は会期2日目、4月10日の朝に行った。ロサンゼルスタイムズ紙の天気予報を調べて、この日が最も気温が低いことが分かったからである。それでもネバダ特有の日差しが強烈で、出展者のテントに入ってはひと休み、水を補給する有様であった。

中央ホールと南ホールの間に設営される「アウトドア・モバイル・メディア」の展示会場に、今年出展したのは、クラーク・メディア、シンコム・ソリューションズ(ThinKom)、ガーリング&アソシエイツ(G&A)、C-COM、コプハム・サトコム、TVプロギア、AvLテクノロジーズなど37社に及んだ。

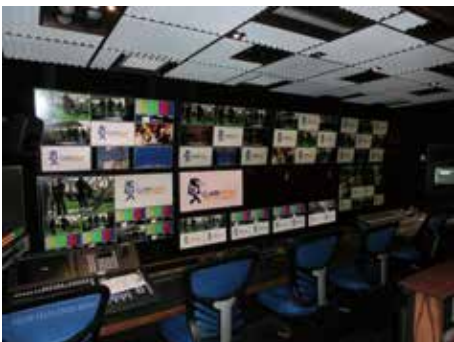


写真1 クラーク・メディアは、長さ16メートルの4K UHD & HD 制作用トレーラーを会場に持ち込んで車内を公開した。

今年の特徴をあげると、第一点は、ウルトラHD(4K)による生中継がアメリカでも増えてきており、大型中継車が出展されていた。もう一点は、旅客機の乗客向けにインターネットやエンターテインメントサービスを提供する航空会社が増えてきたことを反映して、機体に搭載できるスリムで軽量のアンテナを展示しているメーカーが目立った。

「技術者による技術者のために設計」を旗印に掲げたクラーク・メディアは、大型トレーラーをベースにしたウルトラHD(4K) & HD 制作用中継車を出展した。長さ16メートルに及び車内を見せてもらったら、グラスバレーの5ME Kayenne K-Frame 4K/HD プロダクション・スイッチャー、ポランド製の31インチ4K LCDモニター、イマジン・コミュニケーションズ製Platinum IP3ルーター、Calrec製Artemis オーディオ・コンソールなどが導入されていた。カメラは、ソニーのHDC4300とF55を16台装備しているとのことで、トレーラーの外に一台ずつ並べて紹介していた。ブースの説明員は、「制作能力を最大化しているにもかかわらず、



写真2 C-COMは、移動体向け衛星通信用の新製品「iNetVu SOTM」を車上に搭載して出展して、間もなくリリースするとの発表を行った。

トレーラー内のノイズレベルは最小化され、空調も隅から隅まで平均化されている」と自慢そうに語っていた。また、使用実績については、「ロサンゼルスとニューヨークを拠点にして活動しており、ロサンゼルスでは、NBCに依頼されて今年のローズパレードを生中継した。ニューヨークでは、ファッションウィークを手掛けたばかり」とのことであった。

旅客機の上部に搭載できる高機能平面アンテナ、ニュース素材収集用車載局アンテナ、可搬型アンテナを紹介して注目を集めたのはThinKomだ。「ThinAir」と名付けられた旅客機搭載平面アンテナは4種類あるが、GoGo社が提供する「2Kuサービス」用に売られている最新の製品は「Falcon Ku3030」だという。才数と伝送能力を聞いて見たら、「長さ188cm x 幅89cm x 高さ10cm。受信能力は最大95Mbps、送信能力は最大15Mbps」との回答であった。JALが国内線でGoGoをパートナーにしているが、このアンテナを使っているのかと念を押してみたら、多分そうだと思うと答えていた。ちなみにこの製品以外に提供されている「ThinAir」シリーズの3製品は、「Eagle Ka 1000」「Eagle Ka 2000」「Falcon Ka 2517」で、すでにGoGo社向けに2200基の納入契約を締結しているとのことであった。

車載局用アンテナは、「ThinSat300」で、可搬型は「ThinPack」と名付けられている。フェーズド・アレイ方式の前者については、「コムサット社の協力を得て、3月3日から10日までカリフォルニア州マンハッタンビーチからワシントンD. C. まで大陸



写真3 コプハム・サトコムは、軽トラックに同社の「エクスプローラー 8100」アンテナとLiveUのアンテナを搭載してライブIP伝送のデモを実施した。



写真4 AvLテクノロジーは、直径75cm、98cm、1.35mの可搬型アンテナを前面に押し出して展出した。



写真5 フロントラインは、同社のアンテナとポール（照明と監視カメラ付き）を装備した車載局を紹介した。

横断ロードテストを実施して成功を収めた」と、その実績を誇示していた。アンテナの重量とテスト内容を聞いて見たら「SUVに搭載できるアンテナの重量は約3.7キロ。高速で走行しながらテストしたのは、IPベースのビデオ伝送と音声通信」との回答であった。「ThinPak」については、「Ku100」と「Ka100」の2種類を用意しているという。

アウトドア会場にこのところ毎年のように顔を出しているG&Aは、今回、ハイ・ロック・モバイル・テレビジョン向けに製作した大型HD中継車を紹介した。車内を見せてもらったが、グラスパレーのKayenne K-Frameスイッチャー、NEC製32インチ・モニター、CalrecのArtemis音声卓などが装備されていた。カメラについては、「ソニー製HDC1700Lを装備しているが、4K UHDを撮影できるHDC4300も所有している」と説明していた。

カナダのC-COMは、「どこでも使えて、あらゆる場で展開できる」をキーワードに掲げて車載型と可搬型の「iNetVu」アンテナを出展し、移動体通信の新製品「SOTM (Satellite-On-The-Move)」を間もなくリリースするとの発表を行った。ブースの説明員は、「すでに世界100カ国にiNetVuアンテナを7000基以上出荷しており、最大の顧客は、アメリカのバイアサットとヒューズ・ネットワーク・システム。日本のソフトバンクも使っている」と語っていた。今後の狙いを聞いて見たら「衛星である移動体との通信を実現するSOTMの拡販と遠隔診療などのニッチなマーケットの開拓」との回答であった。

コプハム・サトコムは、軽トラックに同社の「エクスプローラー 8100」アンテナとLiveU社のアンテナを搭載してライブIP

伝送のデモを実施した。「8100」アンテナの直径は1メートルで、「8WのBUCでも50dBWのEIRPを達成できる」と説明していた。

ビデオ・システム・インテグレーションを得意とするTVプロギアは、今回も「4K FlyPaks」を目玉にして出展した。ブースの担当者は、「3台のFlyPaksをロサンゼルスとニューヨークを拠点に運用している。クルー付き、クルーなしでの貸し出しも可能」とPRしていた。

ノースカロライナ州アシュビルに本社を構えるAvLテクノロジーは、直径75cm、98cm、1.35mの可搬型アンテナを前面に押し出していた。いずれもKuバンド、Kaバンド、Xバンドの3周波数に対応できる。

今年の屋外会場を回りながら、珍しいアンテナを売り込んでいる2社に遭遇した。ウォルトン・エンタプライズとDHサテライトだ。ウォルトン・エンタプライズは、豪雪地帯向けの融雪機能付きアンテナと豪雨地域・強風地域向けのテントカバー付きアンテナを出展していた。DHサテライトは、時速300キロメートルの強風に耐えられるという超強固なアンテナシステムを出展して来場者の関心を呼んだ。

上述した「アウトドア/モバイル・メディア」の会場以外に、フロントラインが中央ホールに、NEPが南上層ホールにブースを構えていた。フロントラインは、今回、フォード製トランジットT350にAvL社のアンテナと42フィートのポール（照明と監視カメラ付き）を装備した車載局を前面に押し出していた。

世界最大のライブ中継請負業者のNEPは、実車は持ち込んでいなかったが、ブースのモニターで数々の実績を示しながら「現在20台の4K OB Vanを所有している。

アメリカでの実績は、スーパーボール、マスターズ・ゴルフ・トーナメントなど数えきれない」と語っていた。

衛星回線ではなく携帯電話回線を使って高画質のライブ中継を実現するシステムの展示も目についた。この背景には、フェイスブックやYouTubeでの簡易型ライブ配信の需要が出てきていることが挙げられる。今回この分野で出展して熱心な売り込みを行ったのは、TVUネットワークス、ソリトンシステムズ、LiveU、Dejero Labsだ。TVUネットワークスは、「TVU Producer Pro」「TVU Remote Production System」「TVU Transcriber」など、モバイル回線を駆使する最新の中継システムを紹介した。「TVU Producer Pro」は、クラウドをベースにして4カメプロダクションネットワークを実現する。「TVU Remote Production System」については、「最大6回線をボンディングして送信できる」と語っていた。「TVU Transcriber」は、その名称の通り音声からテキストへの自動変換をAIで実現する優れたものである。日本でもよく知られているソリトンシステムズは、同社の「Smart-telecaster Zao」と「同Zao-S」を目玉にして出展した。次世代版の「Zao-S」は、容積が「Zao」の半分以下、重量も350グラムに軽量化されている。

Naokira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト